

させぼっ子たちの環境活動



愛情込めて世話をすると、どの野菜もおいしく実ります



生ごみは約1カ月後には土に戻ります

地域の人も見守るニンジン畑
 ことし6月、隣接する早岐幼稚園の園児と一緒に「芋さし」をしたことがきっかけで、園の空き地を借用して畑を作ることになりました。地域の人たちの援助を受けながら、草刈りなどの作業をし、9月には、園児も参加してニンジンの種をまきました。
 早岐小学校の児童と地域の大人、園児たちに見守られた畑では、きつと見事なニンジンが収穫できるところでしょう。



させぼっ子 環境サミット

環境問題に取り組んでいる市内の小・中学生、高校生たちが活動内容を発表します。作品展や意見交換会などを通して、子どもたちの環境に対する考えや目標を聞いてみませんか。

と き 11月21日(日) 13時~16時
と ころ 島瀬公園 雨天時はJAながさき西海させぼホール(松浦町)

主な内容 市内の小・中学生、高校生による環境活動などの発表会



前回のサミットの様子

サブイベント

大野中学校吹奏楽部の演奏、移動水族館、環境エコレンジャーショー、作品展(10時~19時、四ヶ町アーケード・予定)など



環境エコレンジャーショー

お尋ね 市環境保全課
 (☎26-1787、ファクス 34-4477)
 Eメール: kanhoz@city.sasebo.lg.jp



「生ごみリサイクル活動」に積極的に取り組んでいる早岐小学校の6年生

生ごみリサイクル肥料で育った野菜は

「大きいし、甘味があっておいしかった」と笑顔で答える子どもたち。昼休みや放課後の時間を利用して、トマトやキュウリ、ピーマンを育てました。

出来上がった野菜は、6年生全員に行き渡るように切り分けて、みんなで食べたそうです。

一番大変なことは

「生ごみを容器いっぱいになるまでためて運んだことです」とじっくり考えてから答えたのは吉富菜津美さんでした。

「野菜作りを通して、得たものがたくさんあります」という子どもたちの声は、最後まで責任を持って仕事をやり遂げたという満足感と自信にあふれていました。



「生ごみリサイクル」の看板の下では、早岐小学校の児童が育てた野菜たちが大きな実を付けました



給食後の生ごみを土に混ぜて堆肥を作ります



米糠に水などを混ぜた「ボカシ」を加えると、生ごみが早く堆肥になります

市内の小学校で実施されている学校給食では、調理の過程での野菜くずや、給食後の児童の食べ残しなどが出てしまいます。
 早岐小学校では、これらの「生ごみ」となってしまったものを生かして堆肥化し、リサイクル野菜を育てています。

生ごみのリサイクルで おいしい野菜づくり

早岐小学校6年2組担任の福田泰三教諭によると、ことし3月現在の6年生が「総合的な学習の時間」を利用して、生ごみの堆肥化に挑戦することになったそうです。
 児童たちは、学校内の畑やプランターを利用して、給食で出た生ごみを土に戻し、栄養豊富な土壌を作ることから始めました。
 そしてリサイクル肥料と化学肥料、肥料を使わない場合の3種類のプランターを準備して夏野菜の代表、キュウリやトマト、ピーマンを栽培し、実り方を比較したそうです。

土にまみれて自然を体感